

20 花崗岩の島 篠島

篠島は、三河湾に浮かぶ南知多町の離島で、全域が三河湾国定公園に含まれます。全島が古期領家花崗岩類に属する花崗岩からできており、多くの石切り場の跡が残されています。約 3km 北の距離に日間賀島（南知多町）が、約 7km 北東の距離に佐久島（西尾市）がありますが、両島は篠島と異なり師崎層群の堆積岩からできています。篠島の周囲にあった無人島のうち小磯島と中手島は埋め立てによって篠島本島と陸続きになっています。



図1 神原トータル岩



図2 篠島地形図（地理院地図から作成）→



図3 中手島（地点 A） 暗色包有物が多い



図4 水垂浦 神原トータル岩

篠島の花崗岩は神原トータル岩と呼ばれる花崗閃緑岩で、暗灰色をした片麻状構造が目立つ粗粒～中粒角閃石黒雲母トータル岩です。また、塩基性包有物（暗色包有物）も多く見られます。これらは母岩の花崗岩類を生じた珪長質のマグマとほぼ同時期に活動した苦鉄質マグマから生じたもので、花崗岩マグマ溜だまりへ苦鉄質マグマが注入したと考えられています（吉倉,2016）。

島の東岸には緩やかな弧を描いて 800m 続く「さんさんビーチ」があり，その南端から海岸沿いに花崗岩がよく観察できます（図 4）。赤岩と呼ばれるアプライトの岩脈が海に伸びるところもあります（図 6）。

中部地方各地の神原トータル岩の年代は，約 1 億年前～9000 万年前ですが，南端の南風崎の試料からは 7700 万年前～7500 万年前の年代値が得られ（古川ほか，2023），対比上の問題点が指摘されています。

図 5 花崗岩に見られる差別侵食？→



図 6 赤岩のアプライト岩脈 右は接近して撮影（地点 C）

篠島には多くの採石場跡が知られています（図 7）。採石地は弁財採石地以外は海岸にあります。弁財採石地付近には残石や石引道が見られます（地点 B，図 8・図 9）。篠島の花崗岩は名古屋城の石垣にも使われていることが知られています。その代表が「清正の枕石」と呼ばれる島の南西端付近にある巨岩で，方状節理によってほぼ直方体をなしています（図 10）。上方から眺めると少しわかりにくいかもしれませんが。そのすぐ東方に「升岩」と呼ばれる，採石時のノミの跡が多く残る岩があり（図 11），WEB サイトでは「清正の枕石」と混同されているものがあります。

※トータル岩

花崗岩の仲間ですが，石英と斜長石が多く，カリ長石をほとんど含みません。角閃石や黒雲母を含みます。



図 7 花崗岩採石地（現地の案内板）



図8 弁財採石地の残石



図9 石を運んだ道（石引道）と残石 弁財採石地



図10 清正の枕石



図11 ノミの跡が多く残る升岩

参考文献

古川邦之・谷 健一郎・金丸龍夫・星 博幸，2023，中新統，師崎層群と瑞浪層群に含まれる軽石質凝灰岩の対比．地質雑，129（1），325-340．

村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト．189 p．

吉倉紳一，2016，苦鉄質火成岩類．日本地方地質誌四国地方．朝倉書店，38-42．

【村松憲一】